



西気賀小

R6. 7月発行

臨時号

コミュニティ・スクール便り

「西気賀小Q & A」ができました

令和6年度「西気賀の子供を育てる会」の取り組みとして、地域にお住いでお子様の就学先に悩まれている方に、複式小規模校である西気賀小への不安や疑問の解消に役立てていただくため、西気賀小の保護者を対象にしたアンケート調査を行いました。学校からも補足のコメントを加え、「西気賀小Q & A」に整理しました。

「小規模校のメリット、デメリットは何か。」

＜保護者の回答＞

【小規模校のメリット】

- ・小規模だからこそ体験できることがたくさんある。手厚い授業、先生達との関わり。
- ・人数が少ない分、他学年との関わりがもてて、みんな仲良し！が強い。
- ・人数でマイナスに感じる事よりも、プラスに感じる事の方が多かったです。子供と先生が分かり合っていて、年に関係なく接する事が出来ていると思います。
- ・少人数ならではの良さ（皆 顔と名前を覚えられることなど）が多い。
- ・一人一人に目が行き届き、きめ細やかなサポートを受けられる。
- ・一人一人手厚い教育を受けられること。
- ・人数が少ない為、先生が一人一人に対応してくれている。
- ・子供のことで先生が気づいたことを伝えてくださいますが、その内容が「良く見えるなー」「しっかり見てくれているから、気づいてもらえるのだな」と思うことが多い。それが担任の先生だけでなく他の先生からも聞ける
- ・子供が安心してすごせていると思う。
- ・先生とほぼ1対1での対応ができるから、授業でわからなくてもすぐに気づいて教えてもらえる。
- ・先生方が子供のことをよく見て指導してくれるので良かったです。
- ・一人一人が皆主役になれる機会があると思います。
- ・異学年とのつながりができる。
- ・先生方の思いが伝わってくる。安心して学校に通わせられる。
- ・ブログ毎日更新で学校全員の笑顔を見ることができる。

【西気賀小のよさ】

- ・地域の人々の協力で自然とふれあう体験ができること。
- ・和船やカヌーなど、浜名湖での活動ができる。異学年の子供たちともふれあえる。
- ・他の学校では体験できない事がたくさんあること。
- ・さまざまな体験ができる。

<学校のコメント>

小規模校のデメリットとしては、本校のような小規模校では、大規模校のような大集団での体育的行事や文化的行事ができないことや、学級での話し合いでも多様な意見を出し合うことが難しい場面も多いことが考えられます。その代わり、メリットとして、小規模だからこそできる活動も多くあります。また、小規模校の特徴を生かし、工夫することで、デメリットと考えられること（弱み）を、強みに変えることもできます。

その一つとして、今年度から「企画力」を育てる取り組みを行っています。今年はスタートの年として、異年齢集団で話し合う活動を始めました。大規模校では各学級の代表者による児童会の代表委員会を行っていますが、本校では全児童で行っています。縦割り班や全校で、異なる考え方や立場をもつ子供たちが話し合う場面を意図的に増やし、楽しい活動を企画運営する「参画体験」を全校児童につませます。大規模校では一部の子供にしかできないことの多い「企画運営する体験」も小規模校ならばすべての児童に体験させることができます。

このように、小規模校では、一人一人の活躍の場が設けられ、子供の成長を丁寧に支援していくことができるという良さがあります。

「人数が少ないことで友達関係の難しさや、いじめが心配。また、トラブルがあった時に、子供が孤立してしまわないか不安。」

<保護者の回答>

- ・人数が少ないからこそ、子供の事を気にかけてもらえていると思う。
- ・特に、目立つ様なタイプでは無いと思うけど、先生方や他学年の子達にも、覚えてもらえていると思う。
- ・先生が常に気にかけてくださるし、子供達同士の仲が良いため、今の所孤立の不安はないです。

<学校のコメント>

クラス替えのない小規模校では、一見穏やかそうに見えても人間関係の固定化による生徒指導上の問題は常に潜在していると考えています。学校では子供たちの変化や小さな表れを見逃さないよう努めています。また、縦割り活動や全校活動などで、より多くの関わりをつくることで学年の人数の少なさをカバーし、同時により人間関係を構築する力を付けていきたいと考えています。

「少人数で、十分な学習ができるかどうか。子供をちゃんと見てもらえるかどうか心配。」

<保護者の回答>

大集団を経験する事は出来ないが、より個に特化した学習を行なう事が出来ていると思う。

<学校のコメント>

国で定めた学習指導要領の内容は確実に指導しています。体育科や音楽科など、ある程度の人数がいた方が活動しやすい内容があるため、複数学年で合同授業を実施するなどしています。国語科や算数科など単年度でその学年の内容を履修する教科と、体育科や音楽科、図画工作科、道徳等は2年間で2学年の内容を履修するよう計画的に指導しています。

「複式学級になると、どのように授業が行われるのか、子供たちは集中して授業に取り組めるのか」

＜保護者の回答＞

授業参観に行って、授業の様子を見て不安は無くなりました。

＜学校のコメント＞

1人の教員が2学年以上の学級を担当することを複式学級と呼んでいます。同じように1人の担任が2つの学年を同時に指導することを複式授業と呼んでいます。

複式学級と聞くとすべての授業を複式で行っているように感じるかもしれませんが、実際のところはそうではありません。本校では授業形態を3種類に分けて実施しています。①単独授業、②複式授業、③合同授業です。①単独授業は一般的な1学年1教員での授業、②は別の内容を行う2学年を1教員で行う授業、③は同じ内容を行う2、3学年を1教員で行う授業です。

複式授業をできるだけ減らすために、教員を多く配置する制度があるため、学級数に対する教員の割合が多くなっています。本校では6つの学年に対して授業を担当できる教員が7名おり、多くの授業を単独で行うことができます。複式授業の形式をとる場合も実際にはもう1人の教員を指導に充てることができるため、授業中に（担任が片方の指導をしている間に）自習のような形になることはなく、常に指導者がいる状態で授業が行われています。

「どうしても性格的に合わない人がいた時に子供が上手く生活を送ることができるか。」

＜保護者の回答＞

どの学校でも起こりうる事ですが、少人数では避けるという回避行動は取れないと感じます。しかし、先生方のフォローして下さる体制は素晴らしいと思います。

＜学校のコメント＞

学級の人数が少なく、クラス替えない本校では、性格的に合わない子ども、6年生まで一緒に生活することになる可能性があります。そういった場合には、その子が望む「かかわり方」を丁寧に受け止めながら、どのようにかかわるとよいかを一緒に考え、よりよい「かかわり方」について学んでいけるようにしています。また、いろいろな学年の友達と活動したり、遊んだりする場も多く設定し、子供たちがかかわりを学ぶ機会を大事にしています。

「小学校では皆で仲よく過ごせると思うのですが、中学校に入った時に、なじむことができるのかなと心配。」

＜学校のコメント＞

指定中学の細江中学校は、気賀小、中川小、伊目小、西気賀小の4校が集まりますので、入学当初は人の多さや中学校の生活には驚くことが多いと思います。そこで、細江中学校区では、中学進学時のギャップを少しでも緩和できるように、4校の6年生が一堂に集まり交流会を行っています。普段あまり目にする事のない大人数での活動は、本校の子供たちにとってはとても貴重な経験だと思います。

中学校への適応については個人差があるため「西気賀だから」というものばかりではないと思いますが、現在本校で取り組んでいる縦割り集団や全校の活動、苦手なことを乗り越えるための支援というのは、中学に入ったときの支えになると考えています。